

# UTokyo Sustainability Campus Project

## 活動報告書 2016

### ■ 本報告書について

- ◆ 環境負荷データ対象範囲：東京大学全体
- ◆ 環境負荷データ対象期間：2015年度（2015年4月～2016年3月）
- ◆ CO2 排気量データの基準値は2006年（排気量：143,300トン）とする
- ◆ TSCP 室の活動報告書として東京大学環境安全本部の編集発行「東京大学 環境報告書 2016」より、関連データを抜粋
- ◆ 「東京大学 環境報告書 2016」の PDF 版は下記からダウンロード可  
<http://www.u-tokyo.ac.jp/content/400046425.pdf>

### ■ 東京大学 基本データ

創設	• 1877
施設数	• 54
敷地面積	• 326,025,080 m <sup>2</sup>
建物延べ床面積	• 1,702,077 m <sup>2</sup>
役員・教職員数	• 7,880 人
学部生数	• 14,116 人
大学院生数	• 13,957 人

### ■ 東京大学 環境基本方針

1. **（教育及び研究）**  
 環境に関する科学・技術の進歩に貢献し、環境に配慮した文化の発展に寄与する。
2. **（大学の社会責任）**  
 全ての構成員が、環境関係法令と大学で定めた基準を順守し、研究活動による環境汚染の予防に努める。
3. **（環境負荷の低減）**  
 環境負荷の低減と省資源・省エネルギーを図り、国民と社会から付託された資源を最も有効に活用する。

#### 4. (地球社会の持続的発展)

他大学や研究機関との連携による研究に積極的に取組み、地球社会の持続的発展に貢献する。

#### 5. (地域の環境保全)

地域社会の一員として環境に配慮した大学運営を図り、地域の環境保全に貢献する。

#### 6. (自己改善)

環境方針の目的及び目標を設定して環境保全活動を展開し、見直し改善を図る。

#### 7. (情報公開)

環境に影響を与える活動を自ら点検し、環境情報を学内外に公開する。

## ■ TSCP 室の活動報告

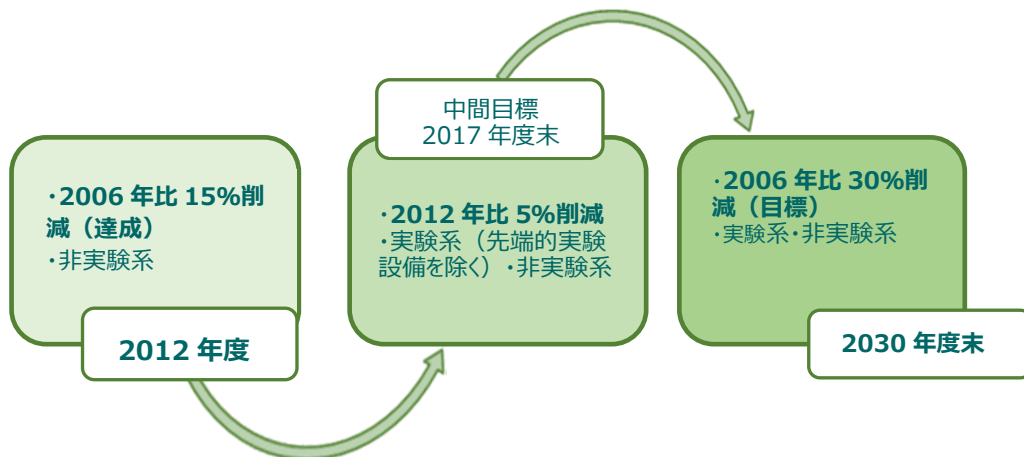
### 地球温暖化対応への東京大学の責任と役割

#### ✓大学からの低炭素社会の実現

東京大学は、持続可能な社会のモデルをキャンパスから示す事を目的とし、2008年4月、東大サステイナブル・キャンパス・プロジェクトを立ち上げ、同年7月に総長直轄のTSCP室を少人数の選任スタッフで発足した。その対象は、エネルギー、廃棄物、水利用、物資調達、緑地にわたるが、当面は二酸化炭素排出削減を対象を絞って活動している。削減目標を次のTSCPアクションプランで示す。

### TSCP アクションプラン

学内エネルギー起源（空調・実験機器・照明負荷・その他OA機器など）におけるCO<sub>2</sub>排気量削減計画



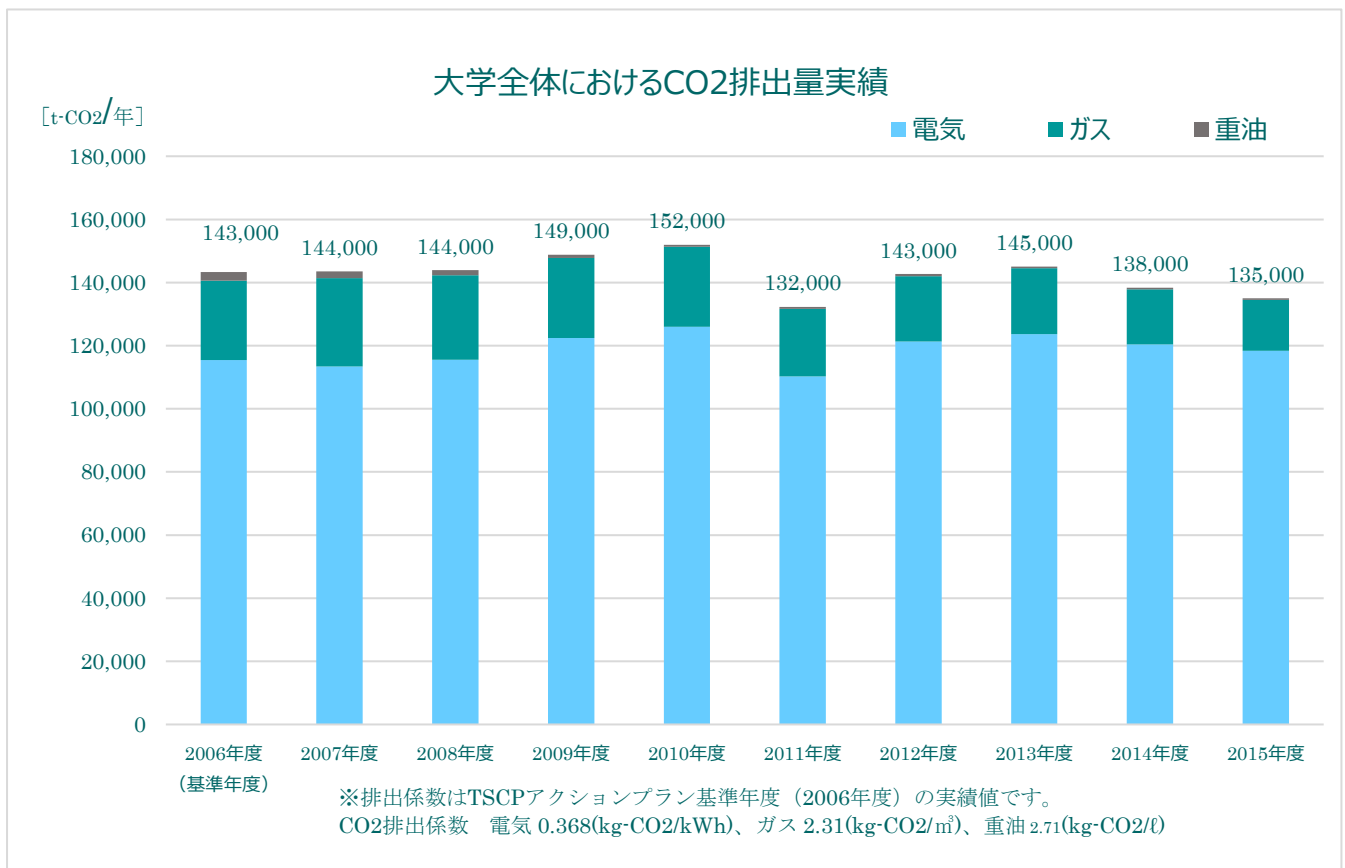
大学の CO<sub>2</sub>排出は、ほとんどが教育・研究活動に伴うエネルギー消費に起因するもので、削減の長期計画としては、徹底的にエネルギー効率を上げ（省エネ）、さらにその後自然エネルギーの活用（創エネ）を増やしていく必要があり、その順序は大切である。

短期目標である TSCP2012 は達成された。これは対象が大学特有の実験系を除いた一般の設備機器であったこのから可能になったと考えられる。この達成により、東京都の環境確保条例による CO<sub>2</sub> 排出量削減義務（2010～2014 年度平均で総排出量 8%削減）もクリアする事が出来た。

今後の TSCP の長期計画として、実験系活動のエネルギー高効率化に入った段階である。自然エネルギーによる創エネは、いまだ費用対効果はそう高くないが、技術革新と市場価格の低廉化を期待しつつ試行を始めている。

ひとつの都市規模である東京大学が低炭素化の成果を上げることが出来れば、社会の低炭素化を実現する道筋が見えてくる。大学の教育・研究活動を妨げることなく低炭素化を進めることには困難が伴うが、社会に対する大学の使命として実現に向けてプロジェクトを進めている。

## ✓ TSCP アクションプラン—CO<sub>2</sub> 排気量の推移



## ✓CO2 排出総量削減に向けた具体的な取り組み

1. 設備更新計画 …… エネルギー消費密度の高い建物から優先順位をつけて実施。コンピュータサーバ室の空調機器を高効率化、又サーバの発熱を効率よく処理し省エネにつなげる。学内に散在するサーバ類を効率的に運用することで全学的な省エネを実現するために、サーバ類に関する省エネガイドラインの策定を予定している。
2. 全部局における教職員の連携 …… 総長裁定により選任した教員と職員からなる TSCP Officer を中心に、部局内の継続的な環境行動啓発、設備の効率的運用などに取り組む。
3. 産学連携研究会によるガイドライン作成……2014 年度より実験施設を含めた省エネルギー化を推進するために、産学連携研究会を発足。2015 年度は特にエネルギーを多く使い広範に存在する実験施設としてドラフトチャンバー、スーパーコンピューターに着目し、ガイドラインを策定した。

## ✓ TSCP 学生委員会の設立と活動紹介

### ● TSCP 学生委員会の概要

2015 年 7 月に設立された TSCP 学生委員会の目的は、TSCP 活動を学生目線で推進することである。持続可能な行動を促すことに加えて、それが自主性をもって継続されることを目標としている。更に、学内の活動にとどまらず、学外へ赴き TSCP の広報や他大学における環境活動の情報収集も行っている。



TSCP 学生委員会会議

### ● 活動内容

- ◆ Global University Climate Forum への参加 …… 国際研究型大学連合 (IARU) の活動の一環として 2015 年 12 月にパリで開催された。学生委員会のメンバーがこれに参加し、スマートフォン向けアプリを用いた学生への環境活動を促す仕組みの構想を発表した。
- ◆ エコプロダクツ 2015 への参加 …… 日本最大級の環境展示会に出展。TSCP や学生委員会の取り組みを広く紹介し、又、来場者から有意義な意見を聞く機会を得た。建物毎の単位面積あたりの CO2 排出量を高さで示す模型を展示。



本郷キャンパスにおける  
CO<sub>2</sub> 排出量の模型

- ◆ フィールド見学と他大学の取り組み調査 …… 東京大学が所有する演習林における間伐推進プロジェクトの現地である北海道演習林を見学、又、他大学と意見交換会を開催。
- 今後の活動予定
  - ◆ 実験系の省エネに向け、使用者である学生の省エネ行動を促進する仕組みづくりを目指す。又、CO<sub>2</sub> 排出量以外の領域における取組として、紙資源に注目、紙の消費実態調査を検討している。